

いっぽんせんとおおきなわっか

——《I/O(アイ・オー)》のための断章

I/Oは インプットのI、アウトプットのO。
I/Oは いっぽんせんのI、おおきなわっかのO。
I/Oは いまここのI、オリオン座の季節のO。
I/Oは 色と音。いちにちの色、おごそかな音。
I/Oは インド洋。インドのI、オーシャンのO。
I/Oは 1(イチ)と0(ゼロ)。いたずら好きの 1と0。

*

インド洋につながる
東京湾につながる
隅田川 をのぞむ
浅草の遊歩道沿いに建つ
ビルの四階。十二月。

*

ここからそこへ
あちらからこちらへ
遠くからもっと遠くへ
波が受け渡されてゆく。
音の波。光の波。水の波。
空気が震え 粒子が移ろう。
雲がうまれる。

*

いまここのI、オリオン座の季節のO。
がらんと広い、むきだしのコンクリート。
部屋に残る、むかし止んだ活動の気配。
部屋に満ちる、これから始まる活動の気配。
十二月の数日間、この部屋に私たちは滞在した。

*

ぶこつな白い手すりのついた縦長の大きな窓に、スカイツリーが切り取られていた。空の木の根元には東京のビルが、どんぐりみたいにいちれつに並んで、手前を高速道路が横切っ
て、もっと低いところを川が横切って、川面はなみなみ動いているのに、水はどちらへ向

かって流れているのかわからない。視界の左隅に、ひっそりと水を湛えた屋外プール。
あ、鳥。

*

いっぽんせんのI、おおきなわっかのO。部屋の中に浮かぶ二つの木枠。木枠から垂れ下がる白い紙の輪っかに、波が届く。音の波。光の波。
波うつ音。波うつ光。

*

床に落ちた埃や屑が、白い紙の着地を待っている。
雲が地表に降りてくるのを待つように。
鉛筆がアイデアの浮かぶのを待つように。
レールに運ばれループを巡り床を擦って
白い紙に、私たちのまだ知らない言語が
書きこまれてゆく。

*

基板とセンサー。
感受性のようなもの。

*

並んでまばたきする電球たち。
フィラメントのひそひそ話。
ふぞろいの光の点滅。

*

床の上はしゃぐ毛ばたきたち。
じゃれあいながら転がって
犬の尻尾の真似をしている。

*

さえずるベルリラ。
二進法の指にいたずらされて
すこし気の触れたかわいいはがね。

*

白い雲を送る歯車。

寝ころぶ私の 左から右へ。
西の空から 東の空へ。

*

向こう岸を散歩の人が歩いてゆく。こちら岸にはすこし褪せた常緑樹がひとりふたり、セーターのオレンジ色に染まった広葉樹がひとりふたり、その傍でずっと背の低い冬枯れの木々がもっと大勢、さむそうにしている。

朝日は、ビルとビルの間隙から、のぼってくる。

*

インプットのI、アウトプットのO。
いちにちの色、おごそかな音。
いまここにある、オーケストラ。
1と0 1と0 1と0の、息づかい。

《I/O》

インスタレーション：毛利悠子 詩：大崎清夏

映像：玄宇民

朗読：萩原慶

音響：藤口諒太

作品設計：nomena アトリエセツナ

会場：nomena

制作スタッフ：伊藤里織 敷根功士朗

設営：HIGURE 17-15 cas

英訳：近藤学

マネジメント：金島隆弘+藤原羽田合同会社